



楽しいウォーキング

ミナクル通信 3月号掲載

健康とダイエット?のために時々、大崎町の堤防沿いでウォーキングをしています。明海町のバイパスと堤防の間の川に鳥がたくさん泳いでいてとても賑やかです。先日目撃した場面は、2羽の仲良し鳥の中を邪魔しに入ってしまった1羽の鳥。鳥同士の三角関係?としばし足を止め見ていました。鳥の世界も大変ですね。正直なところ水はきれいではありませんが、みんな楽しそうに潜ったり泳いでいたりして、見ていて飽きません。投稿：南稜ウォーカーさん

『野依』あれこれ

ミナクル通信 2月号掲載

1 『野依』いろいろ



平家物語巻第四 14本「通乗之沙汰」の章に、「また奈良にも一所ましましけれ・・・後には嵯峨の辺、野依に渡らせ給ひしかば、野依の宮とも申しけれ。」と、野依が登場している。野依の宮とは、高倉宮(高倉天皇)の皇子のひとりである。



2001年ノーベル化学賞を受賞した「野依良治」氏。京都大学・大学院工学研究科修士課程修了。名古屋大学教授等を歴任。キラル触媒を用いて不斉合成する手法を発見した。



大分県中津市に「野依」と地名の附く在がある。日豊本線今津駅から南西に13.1km。八幡様の総本宮「宇佐神宮」がある宇佐市の近くである。

2 地名『野依』の由来

① 当地(野依)は、梅田川、高塚川、切反ヶ谷川、浜田川、西ノ川の流域の『野』にある。この河川の水資源を利用して、弥生時代より稲作が始められたと伝わる。生育された「稲」には、稲魂が宿っており、これが神格化、崇められた。



また、神霊が現われる時の媒体となるものを『依(り)代』という。抛って、神格化した稲が、ここでは依(り)代を指す。以上より、稲作地帯である「野」と依(り)代の「依」を“ない交ぜ”して『野依』となった。

② 野依の地名は、単に野に人が寄り集まって生じたものではなくて、地域の拠点、つまり依り処であったと、極めてシンプルにして明快な説もある。

投稿：野依に拘る中期高齢者

ミナクル通信 3月号掲

佛餉 『河津桜』

野依町佛餉“素盞鳴社”境内および敷地内に『河津桜』が植栽されており、桜咲く時節になると「きれいだに!!見ておいきん」をキャッチフレーズとした幟が立ち、情趣を誘う。



見ごろは、例年2月の末から3月の上旬。

地元の方は「沿道には車を止めないで。また桜の枝の折り切りはしないで。花見を愉しんでください。」と話す。この地には、河津桜31本、染井吉野が16本ある。

【話しは続く】

(その1) 今から35年ほど前、市道 天伯町・野依町1号線の拡幅・開鑿(かいさく)により、素盞鳴社の鎮守の森がやや空疎となったため、河津桜を生国である静岡県河津町より苗木を購入し植え付けた。今や壮年期を迎え、開花時には色彩に富んだ情景が映る。

(その2) 素盞鳴社は素盞鳴尊を祭神。社格は「村社」、格付14等級。素盞鳴尊とは、伊邪那岐神から化生した、三貴子(天照大神、月読命、素盞鳴尊)のうちの一人。版図の較差を巡り、姉(天照大神)との対立抗争の果て、体罰を科せられたうえ、国外(新羅国)に追放。その後、恩赦・贖罪が認められ帰国。帰国後は、福祉貢献、植林事業等国土経営に粉骨砕身、崇拝される神となった。



投稿：ルポライター 野依のM・Y